

つくしの家だより

HP アドレス <http://ichiyoukai.sakura.ne.jp/>

No. 114 2025. 6. 1

〒421-0522
静岡県牧之原市相良 240-1
(児童発達支援事業所)
つくしの家
(生活介護事業所)
つくしホーム
☎ 0548-52-2225
事務局 52-0825
FAX 52-1156
e-mail:tsukushihome@
aioros.ocn.ne.jp

与える心

： 栗林 均

つくしの家では、五人の新しいお友達を迎えて新年度がスタートして二ヶ月が経ちました。お母さんと離れての生活に少しずつ慣れてきて楽しそうな表情が増えてきました。

以前読んだ本の中に、こんな文章がありました。紹介させていただきます。『結核がまだ死に至る病だった頃の、アメリカのある病院のお話です。——その病室にも死の宣告を受けた七名の患者が入っておりまして。ジミー・カーチスは、その一番窓際に寝ていました。自分で動くことができない患者の中で、ジミーだけが、唯一、窓の外を見ることができました。死と隣り合わせの同室の患者は、みんな心がずさんでいました。その患者を前にして、ジミーは窓から見える光景をみんなに語り伝



えるのです。「おーい、みんな、今日は子供達が遠足だよ。黄色いカバンを下げている子がいるな。いやあ、ピンクの帽子をかぶっている子もいるよ。かわいいな。三番目と四番目の子が手をつないで歩いている。きつと仲良しなんだろうなあ。あ、空には黄色い蝶々が飛んでいるよ」ところが、ある日、朝起きてみると、窓際に寝ていたはずのジミーがいまません。昨晚、亡くなったのです。すると、入口から二番目のベッドに寝ていたトムという男が、「俺をジミーが寝ていた窓際にやってくれ」と頼むのです。しかし、看護婦さんたちは、顔を曇らせて、なかなか言うことを聞いてくれません。業を煮やしたトムは、声を荒げて怒鳴ります。それで仕方なく、看護婦さんたちは、トムを窓際に移します。喜んだトムは、「俺はジミーみたいに外の景色をみんなに話してなんて聞かせないぞ。自分だけで楽しむんだ」そう思って窓の外を見たのです。ところが、窓から見えたのは、灰色の古ぼけた壁だけだったのです。その瞬間、トムはジミーの思いがすべてわかったのです。「ジミーは、窓しか見えないのに、自分たちのすきんだ心を励ますために、その壁の向こうに広がるであろう

素晴らしい世界をああやって語り聞かせてくれたんだ。それに引き換え、自分ときたら、自分だけ楽しもうなんて、何と浅ましい心の持ち主であらうか。何という恥ずかしい自分であらうか」心から懺悔したトムは、ジミーに負けないくらい、素直な思いやりをもって次のように語り聞かせるようになったのでした。「おーい、みんな、今日は花屋さんが通るぜ。車の中はバラの花でいっぱいだよ。前のほうは、あれはパンジーの花だな。あの隣りの黄色いバラ。甘い香りがするだろうな」——ジミーがした仕事はすごいですよ。トムの人生を一瞬にして変えています。トムはそれまで心がずさんでいました。きつと、辛い人生だったんでしょね。でもジミーの「与える心」のおかげで、トムの人生は最後の最後に大きく変わりました。人生の最後に「人の心」を取り戻させてあげたいです」……こんな文章でした。

ジミーがベッドから与え続けた風景、トムは最後の最後に心の中にあつた優しい心を取り戻し、与える人となりました。子ども達との日々を振り返ってみました。すぐに答えの出ることばかりではありません。これから初めて経験することがいっぱいの子ども達に、私達はどんな風景を与え続けていけるのでしょうか。ふとそんなことを思いました。

(一羊会理事長・つくしの家園長)

多くの支えに感謝

これからの願う姿

増田 隆

いよいよ本格的な夏を迎えようとしています。本来ならプール開きの知らせが届く時期ですが、ここ数年の気温上昇の影響で、時期をずらすところが増えています。強い日差しはもちろん、プールに水をためておくと、翌日にはお湯のようになってしまい、危険な状況になるという話も聞きました。

警戒しなければならぬ程の暑さが続いた昨年七月、つくしホームでは新型コロナウイルスが流行してしまいました。熱中症への警戒は強めていましたが、まさかこの時期にコロナウイルスが流行してしまうとは知る由もありませんでした。感染症拡大のみならず、事故や事件、様々な災害も「まさか」というタイミングで起こります。何も起きない事が当たり前ではなく、いづどんな状況でも対処できるように心がけたいと思います。

今年度、つくしホームは二十五名の利用者さんと十六名の職員でスタートしました。新しく入られた方はいませんが、担当職員やグループが変った方もいて、最初は戸惑う様

子も見られましたが、今ではもう慣れて、それぞれのペースで毎日を送っています。新たに入られる方だけでなく、年齢など様々な事情で他の事業所に移られる方もいます。利用者さんの年齢層等、これまでとは変りつつありますが、ひとりひとりの利用者さんの個性や特性、障害に合ったかわりを忘れず、支援を続けてゆきたいと思っています。

つくしホームは、「生活介護事業」という障害福祉サービスでの制度を行い、利用者さんたちが日常生活を送るための支援や介護、活動を行う場所となります。それとは別に、「施設入浴」という事業を利用されてい



る方もいました。これは、自宅での入浴がとて大変であると牧之原市認定を受けた人ならば、身体・知的・精神等の障害にかかわらず、全ての人が自宅、あるいは施設入浴を受ける事が出来ます。平成十二年度から始まったこの事業（牧之原市障害児者日中一時支援事業）は、旧相良町時代に保護者の方々の強い要望を受け、町、そして牧之原市社会福祉協議会のご協力で実現しました。午前中は高齢者の方々が利用されている機械浴を、空いている午後の時間に利用する、というものです。当時から静岡県内でこのような単独事業を行う市町村はなく、牧之原市独自の制度でした。他の市町村の方にお話すると、みなさんが驚き、そして「本当にいい制度ですね」と言っていて感心してくれました。月曜日から金曜日までの午後、相良デイサービスセンター（高齢者事業所）からリフト付きワゴン車に乗ってヘルパーさんがつくしホームに迎えに来てくれて、そのまま車に乗り込んで機械浴等に入浴し、帰りも送ってくださいます。今年三月までは一名の方が利用していますが、過去には一日四名という日もあり、多くの方が利用され、みんなこの日を楽しみにしていました。

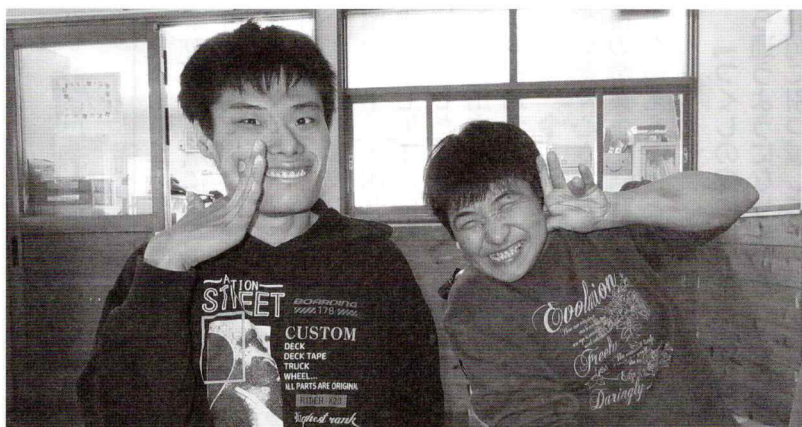
最初は、保護者がつくしホームにお迎えに来てくれて、入浴設備のある事業所に行き、そこで入浴してか

ら自宅に帰る、というものでした。

お互いに初めての試みで、特に高齢者の方々の介護支援が主だったヘルパーさんたちは、障害を持つ方々と初めて会う人がほとんどで、介助だけでなく、関わり方や接し方等できっと戸惑いやご苦労も多かったことと思います。お風呂に入って身も心も温まり、血行も良くなり、保護者の方々の介護の負担も減りました。

しかし、次第に別の面においても効果が表れます。それは、入浴後、「気持ちよかった」ということだけでなく、「今日ヘルパーさんといろんな話をしたよ」という感想が加わり始めました。中には入浴そのものよりヘルパーさんたちとの関わりが楽しい、という人もいました。居宅介護（家庭での食事、身体介護や家事





援助等)、移動支援等でも、今まで入浴を担当して下さったヘルパーさんたちがそこに支援に入って下さることで、とても安心できました。もし入浴サービスという事業がなければ、浸透するまでもっと時間がかかっていただけれません。そして、この事業を通してお互いの顔がわかり、何でも相談し、意見し合える関係が築かれ、信頼が増したことが何よりでした。行政、社会福祉協議会はじめ、皆様の理解があつてこそだと思います。この事業が、三月をも

って終了となりました。二十五年間という長い期間、制度を利用していただき、つくしホームとして心から感謝しています。本当にありがとうございます。

いつもなら新茶の刈り取りが終わってから始まる田植えも、今年は四月から行われていました。昨年からのお米不足の影響なのかもしれません。昔はつくしホームでも農家の方が多く、お茶は勿論、田植えやイチゴの栽培等に忙しく、ほとんどの方が複数のものを兼ねていました。ご存じの通り、種や苗を植えてしまえばそのままではなく、天候や気温と相談しながら追肥や手入れを怠らず、収穫の日まで気が抜けません。新茶も肥料や薬も規定により時期や量を細かく決められ、四季を通して手入れを欠かせません。時には収穫を目前にして、たった一晩霜が降りたために、わずかに防霜ファンの効果が及ばなかったためにすべてがダメになってしまうことさえあります。農繁期になると、朝ひと仕事してから一番につくしホームに送ってきて、五時のチャイムを聞く時間に、汗や泥まみれになってお迎えにみえる保護者の方を送った事を思い出します。食の安全や、大切さが見直されている昨今、あまりにも負担や条件の厳しい農業をもっと見直すべきではないのかなと思います。



今日もホールの中では、グループごとに立てられた年間の目標や計画に沿いながら、「今年はこんなことしたいね」とみんなで考えた活動が行われています。細かく高度な内容や、たくさんさんの活動をしたかしなかではなく、「このメンバーで一緒にできてよかったね」と思えるような事も経験して欲しいと思います。それぞれの個別支援計画も、本人やご家族の願いを汲みながら、できました。昨年度の評価・反省も含め、内容も、読んでいてひとりひとりの顔が浮かんできて、思わず微笑んでしまうような温かなものになればいいなと思います。それぞれの願いや、

その人の気持ちに沿ったケアを考えるとというのは、いろんな思いが次々と浮かんできます。一時期、発達段階を詳しく調べ、障害の軽減や身辺自立に向け、少しでも機能回復に向けて取り組もう、との思いで計画を立てた時期がありました。でも、生まれてからずっと様々な訓練や療育を受け、ようやく大人の仲間入りをしたつくしホームの人に、「さあもともとと訓練するよ」というのは少し違うのではないかと思います。そして、その人を見るときよりも、障害や発達を先に見てしまっていたのではないかなと思います。

つくしホームに必要なのは、細かく評価され、びっしりと書き込まれた発達診断表でも、完璧な訓練や身辺自立でもなく、「もし自分だったらどんなふうに思うのかな」という相手の立場に立った考え方と「こんな姿になつてほしいな」という願う姿への想像力なのではないかなと思います。障害や発達だけに目を向けていたのでは、本当の姿は見えないでしょう。「できること」、「やれること」だけを探すのではなく、「やりたいこと」を見つけ、一緒に過ごしながら気が付いていたら笑っていることが多くなった。そんなふうに感じ合うようになれるように、心に目を向けてゆきたいと思います。

(つくしホーム施設長)

「訪問教育」と共に：

令和七年三月二十四日、つくしの家の東館一階にある小さな学習室で吉田特別支援学校訪問教育部の閉校式が行われました。それまで静岡の中央養護学校、昭和五十八年度からの南部養護学校の訪問教育を経て、昭和六十一年四月藤枝養護学校、平成二十七年に吉田特別支援学校が開校しました。それまで遠距離で通うことの出来なかった学令の子ども達が本校通学ができるようになってきました。令和六年度には高等部三年生の菜々心さんがつくしの家での最後の卒業生、同時に訪問教育の閉校式を迎えることとなりました。



『つくしの家には、こぐま教室から通うようになりました。二年前に静岡に引越してきて、私は不安でいっぱいでした。ななみはともマイペースで、自分の意志をうまく表現できないから、それをわかってくれる先生に出会えるのだろうか、ほんと不安でした。でも初めてつくしの家に来た時、先生達はとても温かく「ななちゃん、ななちゃん」って声をかけてくれて、一気に不安がなくなりました。今年の六月からぎんが組に入園したけど、入退院が多く、最近やっと通えるようになりました。つくしに来ると、なな

みの表情は笑顔が多くなり、とても楽しそうです。最近では私達の言っている事を理解しているように思います。これから少しずつ体も丈夫になつて、毎日元氣よく通えるといいなと思います。日々の成長がとても楽しみです。親子共々これからお世話になると思いますが、よろしくお願いします。つくしに来てほんとよかったです。——今から十四年十ヶ月前、平成二十二年六月、菜々心さんがつくしに入園した時にお母さんが書いて下さった文章です。



三歳でつくしの家に入園した菜々心さんは、平成二十五年四月に藤枝養護学校に入学、つくしの家に学校から先生が来てくれて学習室での勉強が始まりました。小学部、中学部、高等部の十二年間、この小さな学習室が菜々心さんの学校でした。手先を使つての製作、部屋を暗くしての光遊び、民生委員さんとの交流学习、本校の皆さんとズームを使つての学習など、楽しく勉強している様子をホールに戻ってきた時に先生から伺うことが楽しみでした。学習のない時間は、つくしのお友達と一緒に活動。小さなお友達と学齢の皆さんが一緒に空間で過ごす生活は何だか自然なつくしの風景でした。訪問教育の幕は閉じましたが、これからもみんなが元気に過ごしていきたいと思います。

癒されてます

原田 重乃

鬱々とした日々を送っていた時につくしホームと出会いました。すぐにその気持ちは、有難い事に晴れていきました。利用者さんとの関りは、気持ちに寄り添ったり理解しようとしたりと、難しく考えさせられることもたくさんありますが、どんなコント番組よりも楽しい場面や、ほっこり温かい気持ちになる場面もたくさんあって、すぐに落ち込んだ気持ちは、どこかへ飛んでいきました。

私は、この近所で生まれ育ちました。小学四年生の頃、つくしの家がまだ六畳一間の頃に何回か遊びに行き、そこにいた小さな子供達に本を読んでもらった記憶があります。今考えると、紀代美さんや照美さんだったのではないかと想像をめぐらせています。再びこのつくしホームで支援が出来た事に、何か御縁を感じました。

散歩に出かければ、親類や幼なじみや、それに姉ともよく顔を合わせます。

昔の景色とは幾つか違って見える場所がありますが、そこを通るたびにいろいろな思い出が湧いてきます。幸せを感じながら利用者さんと一緒に散歩させてもらっています。

社会に貢献したいなどと、おこがましい気持ちでしたが、私自身

が利用者さんから救われ、癒されてきました。

アツという間に七年目を迎えました。職員としてスタートしたその一年後にはコロナ禍になり、さまざまな行事が中止になりました。たった一年でしたが、貴重な楽しい経験をさせて頂きました。

コロナ禍から入園された利用者さん達は、全くその経験がなく、つくしホームだけの行事しか知りません。以前のように楽しい経験が早くできればいいと思います。

保護者の皆さんとも朝夕のあいさつだけしか今はありません。また新たな交流が生まれることを期待します。

これから先も利用者さんが安心して楽しく過ごせる様、お手伝いをしたいと思っています。

(つくしホーム生活支援員)



なかみ かわらなか

ご挨拶

園庭の桜の木や、クルミの枝からやわらかな薄緑色の葉が気持ちよさそうに風に揺れています。

以前、新聞にこんな記事がありました。『今年もまた、家のそばにツバメがやってきて、巣を作った。かわい子ツバメが生まれ、親ツバメは忙しそうに巣にえさを運んでくる。子ツバメは、それを楽しみにしているのだらう。顔を思い切り出してえさをもらっている。一年の風物詩のようなものだ。さて、今年の子ツバメをよく見ていたら、どうやらすぐに飛べるようになったのとなかなか飛べないのがいた。親ツバメは、ほんの少しの距離を見本に見せ、ここまで飛べという合図を送るのだらう。子ツバメはまねをして、一生懸命練習し返した。それができるようになるとまた少しまた少しと距離を延ばしていった。そして、ついに一番弱かった子ツバメは大きな空へ自由に飛び出せるようになった。その子ツバメと親ツバメの様子を前から見ていたのなんだか胸が熱くなってきた。人間社会では、どの子にも応じた教育というスローガンを掲げ、先生たちが一生懸命に研修や実践に取り組んでいる。それは、もちろん大切なことである。しかし、言葉も何もないツバメは誰に言われたわけでもないのに自然の営みとして子どもたちの実態に応じて子育てをしている。』
『：こんな文章でした。』

この四月、つくしの家では五人の新しいお友達を迎え、二歳から五歳までの十六人の子とも達と親子教室のお友達とで一年がスタートしました。入園したお友達は、お母さんと一緒に通園から少しずつ一人で過ごす時間をのばして来しました。最初の頃：お母さんと離れて不安そうなお子とも達の顔がありました。玄関からそつと、何度も振り返りながら車に乗り込むお母さん。この子ども達のほとんどは、三月までは親子教室に通っていました。子ども達にとってもお母さんにとっても、ここは一緒に来て、午前中の教室が終われば一緒に家へ帰る場所だったはずです。みんなの輪の中にちよこんと座っている小さな身体、先生と手をつないでお散歩に出ていく後ろ姿、精いっぱい瞳、小さな笑顔を探しながら、ゆっくりゆっくりつくしの空気の中に溶け込んできてくれているように感じた二か月でした。生まれて初めての経験、子ども達一人ひとりの心の中には、きつといういろいろな思いがいっぱいで、そんな思いを持ちながら毎日過ごしていることでしょう。

園庭で子ども達を迎えた満開の桜が散り、お砂場の上の藤棚の薄紫の花へ、そして陽ざしを浴びて日ごとに木々の葉が色を濃くしてきました。これから歩いて行く日々、ゆっくり、ゆっくり一人ひとりの必要な時間をかけながら、一人ひとりのいいところをいっぱい探しながら、そしてずつと先にあるステキな姿を楽しみに、

令和6年度 心身障害児通園施設つくしの家

後援会 決算報告書

収入金額	2,084,884円
支出金額	598,381円
差引金額	1,486,503円

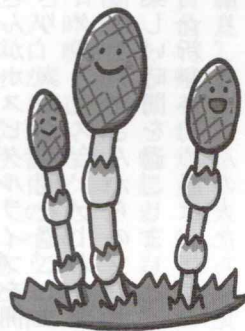
(不足分は繰越金より補填)

収入の部

科 目	金 額	説 明
1 寄附金収入	2,083,670	223 口
2 雑収入	1,214	預金利子
合 計	2,084,884	

支出の部

科 目	金 額	説 明
1 事業費支出	398,381	
(1) 一般物品費	0	事務用品代
(2) 印刷製本費	167,200	たより112号、113号
(3) 役務費	227,001	払込料金、たより発送代
(4) 雑 費	4,180	残高証明手数料
2 繰入金支出	200,000	
(1) 本部会計繰入金支出	200,000	
3 雑支出	0	
(1) 雑支出	0	
合 計	598,381	



みんなでにぎやかに歩いていたらいいなって思いました。以前聞いたこんな言葉がふと浮かんできました『「いい子だからかわいがられる」のではなく、「いい子になる」のです」と。そおつと、大切に。つくしの玄関のひさしの下の巣の中から、そろそろかわい子ツバメの赤ちゃんのにぎやかな声が聞こえてきそうですよ。

取扱金融機関のご案内

三菱UFJ銀行静岡支店
普通 4254072
口座名 つくしの家後援会
(以下同じ)
静岡銀行相良支店
普通 145949
島田掛川信用金庫相良支店
(旧島田信用金庫) 普通 134511

郵便振替
00820-5-57983
口座名 心身障害児通園施設
つくしの家後援会

令和六年度の後援会決算を感謝をもって報告させていただきます。これから梅雨の時期を迎えます。皆様のご自愛を心よりお祈り申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

つばき

◆つくしの家のあゆみ

十一月 ◎市内の永田さん（じいじ）からアルミ缶、パチンコ店、パオ様よりお菓子、二葉測量の泉地さんから柿をいただきました。◎交通安全協会の指導員さんによる「交通安全教室」を行いました。◎日赤奉仕団相良分団の皆さんの慰問があり、タオルや洗剤、石鹸をいただきました。◎市内の結婚式場「うおとも」様より昼食のデリバリーをいただきました。みんなバクパクおいしそうに食べていました。ごちそうさまでした。◎市内の小中学校教員三年研三名と、こども園教諭二名の皆さんが研修に来て、子ども達と一緒に活動に参加してくれました。◎島田法人会相良支部の皆さんが窓拭きをしてくださいました。クリアファイルやメモ帳等もいただきました。◎卒園児のお母さんの丸山さんと高橋さんごん汁とおかず、サラダを作ってくださいました。とってもおいしかったです。

十二月 ◎パレットさんによる「おはなし会」で、大型絵本や紙芝居、手遊びや手品と盛りだくさんの内容で楽しかったです。◎障害者週間で今年もお世話になった方々に、子ども達が作ったカレンダーを届けました。◎クリスマス会では、ゲーム、職員の演奏とパネルシアター、マジックショー、お昼を楽しみました。そして、うおとも様の社長さんがサ

ンタになり登場。プレゼントを手渡してくれました。

一月 ◎今年もみんなで書き初め。筆で文字を書いたり、だるまさんを作ったりしました。今年もみんな金賞でした。◎牧之原小学校の皆さんからアルミ缶回収の収益でパネルシアターと絵本をいただきました。

二月 ◎牧之原市により、園庭入口の大きな松を剪定していただきました。◎カーブス牧之原相良店様よりフードドライブで沢山の食料品をいただきました。ありがとうございます。

三月 ◎以前こぐま教室に通っていた中島君のお父さんがボランティアで側溝や雨どいなどの掃除をしてくださいました。◎訪問教育が今年度で終了となる為、閉校式が行われました。藤枝特別支援学校の校長先生をはじめ、吉田特別支援学校の歴代の校長先生や教員の方が来てくださいました。◎鈴木綾先生と内藤秀先生が退職となりました。ありがとうございます。新しい道へと歩き出しました。みんな応援しています！

四月 ◎二十七年間勤務した渡邊賢治先生が、法人内のこづつみ作業所に異動となりました。沢山の思い出がありがとう！◎新しいお友達五人を迎え一年のスタートです。



ゆずむ

◆つくしホームから

11月 ☆市内「うおとも」さんからデリバリー。おいしいお弁当が届きました。☆日赤奉仕団の皆様からタオル等たくさんいただきました。

☆島田法人会相良支部の皆さんは窓ガラスや網戸のお掃除をしていただきました。☆星いきいき社会福祉財団様より、デジタルカメラを助成していただきました。☆7月に引き続き、丸山さん、高橋さん達がおいしいランチ（たまご丼、豚汁、サラダなど）を作ってくれました。

12月 ☆法人理事の富田さんと今村職員がオリジナルキー作りしてくれました。☆お世話になった方々に感謝を込めて手作りカレンダーを渡しました。☆音楽活動家「松尾貴臣」さんがホスピタルライブを開いて下さり、素敵な時間を過ごしました。☆クリスマス会、ゲームを楽しんだ後はサンタさんからのプレゼント：楽しい時間を過ごしました。

1月 ☆新春書初め展は、作品を玄関に飾り、たくさんの人たちに見てもらいました。☆せせらぎグループによるおやつ作り。プリンアラモードを作りました。

2月 ☆豆まき。ウレタン製の剣やゴム鉄砲で鬼退治。みんなとても頑張りました。☆つばめグループのおやつ作り。パレンタインキーを作りました。☆カーブス牧之原相良店様よりフードドライブ事業に寄せられた食料品をいただきました。ありがとうございます。

編集後記

4月に入園した園児達も、園での生活にも慣れてきました。そうして遊ぶお友達の姿を真剣に目で追いつながり、その後笑顔でこちら方まで笑顔を見せてくれます。これから、いろんな経験を積みながら、友達や周囲の人とのかかわりを深めていって欲しいと願います。

3月 ☆ひなまつり。貝合わせならぬ会の中の絵合わせゲームをしました。☆出前注文。いろんなお店の大好きなメニューを頼みました。☆市内菅山小学校4年生が、つくしホームの為に校内でウエス集めをして、25kgのウエスを寄付してくださいました。児童の皆さんや地域の方々の温かなお気持ちやご理解に、心より感謝申し上げます。☆音楽リズム発表会。グループごとに演奏を発表しました。☆厚生労働省よりゴム手袋をたくさんいただきました。

4月 ☆春のレクレーションは、輪投げ大会。3チームの対抗戦で盛り上がりました。☆食事は出前注文。☆大橋さんと木村さんによる楽器演奏と紙芝居などのコンサート。リクエストにも答えていただき、楽しい時間を過ごしました。☆今年度第1回食事は出前注文。☆土曜日の1日開園日には、順番を決めて交代でドライブに出かけます。みんな笑顔で帰ってきます。次回が楽しみです。